

平成28年度 島根県教育センター教育研究発表会のご案内

うらかな春から初夏の気配も感じるこの頃、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、当島根県教育センターでは、下記のとおり教育研究発表会を開催することにいたしました。多くの教職員の皆様にご参加いただき、これらの研究成果を教育実践の参考にしていただくとともに、私たちの研究等についてご意見とご感想を賜うることができれば幸いに存じます。
昨年度に引き続き、当センターの研究に加え、島根大学大学院教育学研究科現職教員1年短期履修コース修了生の成果発表もあります。また、午後の研究発表において、発表者と参加者の皆様の双方向性をより高めるため、ポスターセッションによる発表形式も取り入れました。
講演は、NHK番組「プロフェッショナル仕事の流儀」で『背伸びが人を育てる』校長・荒瀬克己氏として放送された荒瀬克己氏（大谷大学文学部教授、元京都市立堀川高等学校校長、中央教育審議会初等中等教育分科会委員）にお願いしました。ICTや教科教育、特別支援教育に関するDVD視聴コーナーのほか、浜田教育センター研究発表の時間も設けており充実した内容となっております。
何かとご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご来場くださいますようお願い申し上げます。

島根県教育センター所長 村木 隆夫

記

- 期日 平成28年5月21日(土) 9:20~16:20
- 会場 島根県教育センター 2階 講堂ほか (松江市内中原町255-1)
- 日程
 - (1) 受付 9:00~9:20
 - (2) 開会行事 9:20~9:35
 - (3) 成果発表・共同研究発表 9:35~11:30

■成果発表 9:35~10:00	
語句・語彙に着目させる指導が学習者の読みに与える影響 島根大学大学院教育学研究科現職教員1年短期履修コース修了生 雲南市立三刀屋中学校教諭 山崎 裕子	国語科定番教材である『走れメロス』について「資料版・走れメロス」を作成し、それと「教科書版・走れメロス」とを比較して読む実験群と、従来の指導を施す対照群を設け授業を行った結果、実験群の生徒は読みの視点が広がり、登場人物に対する印象が変化することが明らかになった。
■共同研究発表 10:05~11:30	
① 研究成果の普及に関する一研究 ～情報モラル教育校内研修パックの活用を通して～ 研究・情報スタッフ研究セッション 指導主事 青山 浩晃	前年度作成した「情報モラル教育校内研修パック2015」等の成果物を、学校で活用してもらうための効果的な紹介・配布の方法について、テーマ研修「情報モラル教育推進研修」のあり方を通して探った。
② “生徒指導・教育相談・学級集団づくり…etc.” 『校内研修ベストセレクション』の作成 教育相談スタッフ相談セッション 指導主事 吉野 敦博	校内研修の活性化を願い、生徒指導、教育相談等の視点から研修案の提供をめざし、協力校により試作研修シートを使った研修を実施した。教職員の意見や感想も参考にし修正を加え『校内研修ベストセレクション』として提案する。
③ 高等学校における多様な支援ニーズに応じた教育の充実をめざして ～個々の生徒の学びと育ちを保障する「チーム支援」を考える～ 教育相談スタッフ特別支援教育セッション 指導主事 廣瀬 卓	高等学校における多様な支援ニーズに応じた教育の充実をめざして、教職員の生徒の見方、捉え方を変え、実践する組織づくり「チーム支援」を推進していくための島根県教育センターの連携・協働のあり方を探る。
(4) ポスターセッション 11:40~14:20 (昼食・休憩 12:10~13:10をはさみます) ・発表は、3回に分けて行います(説明15分、質疑応答15分)。【1回目】11:40~12:10 【2回目】13:10~13:40 【3回目】13:50~14:20 ・来場者の皆様には、以下の12テーマで発表を行う各ブースをおまわりいただきます。	
◆平成27年度スタッフ指導主事共同研究(2-3研修室、研修準備室、会議室) *③ 研究・情報スタッフ 情報セッションの発表は、研究情報棟で行います。	
① 校内授業研究推進のための教育センターの支援の在り方 企画・研修スタッフ	校内授業研究推進のための効果的な教育センターの支援の在り方に関する研究。効果的な研修・講座の在り方や指導主事のかかわり方、「学習指導案」に関するリーフレットの作成、出前講座等の分析から研修内容・形態の在り方を探る。
② 高等学校「授業改善」に向けた取組～高等学校教育に期待されていること～ 研究・情報スタッフ 研究セッション *研究情報棟で行います。	次期学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会「論点整理」等で述べられている、高等学校における「授業改善」に向けた取組について考察した。高等学校教育を取り巻く状況から、今高等学校に期待されていることについて研究を進めた。
③ 研究成果の普及に関する一研究 ～情報モラル教育校内研修パックの活用を通して～ 研究・情報スタッフ 情報セッション	前年度作成した「情報モラル教育校内研修パック2015」を改良した「情報モラル教育校内研修パック2016」を、パソコンを利用して実際に操作してもらった。
④ “生徒指導・教育相談・学級集団づくり…etc.” 『校内研修ベストセレクション』の作成 教育相談スタッフ 相談セッション	校内研修の活性化を願い、生徒指導、教育相談等の視点から研修案の提供をめざし、協力校により試作研修シートを使った研修を実施した。教職員の意見や感想も参考にし修正を加え『校内研修ベストセレクション』として提案する。
⑤ 高等学校における多様な支援ニーズに応じた教育の充実をめざして ～個々の生徒の学びと育ちを保障する「チーム支援」を考える～ 教育相談スタッフ 特別支援教育セッション	高等学校における多様な支援ニーズに応じた教育の充実をめざして、教職員の生徒の見方、捉え方を変え、実践する組織づくり「チーム支援」を推進していくための島根県教育センターの連携・協働のあり方を探る。
⑥ 子どもを見る視点を問い直す ～相談室に来所する子どもをとらえて～ 浜田教育センター教育相談スタッフ	子どもの「心の状態」が置き去りにされているのではないかと問題意識からスタートし、「自尊感情」と「共有体験」をキーワードにして、新たな「子どもを見る視点」、学校現場で活用できるワークシートを提案する。
◆平成27年度長期研修員・特別支援教育研修生(2-1研修室、2-2研修室)	
① 数学的思考力・表現力の育成につながる児童の主体的な「問いの連続」のある授業一思考シートを活用した指導の工夫 松江立津田小学校 教諭 石橋 裕子	解決の見通しや予想した児童の問いとつながる学習課題で構成された「問いの連続のある授業」の単元計画を土台に、数学的思考力・表現力の育成をめざす算数教科授業を研究した。
② どの子どもも参加し、居場所を感じる学び合いの授業作り ～つながりを生む教師の手立てのあり方～ 松江立持田小学校 教諭 川本めぐみ	授業の中での「居場所感覚」が主体的な授業参加につながるという視点から、どの子どもも参加し、居場所を感じる学び合いの授業作りのために、子どもたちの言葉や思考のつながりを生む教師の手立てのあり方について実践・考察した。
③ 生徒の主体的意思決定を支援するかかわりについて ～キャリア発達の視点から～ 三刀屋高等学校 教諭 川谷 毅	高校生は進路選択という重要な意思決定が必要とされる時期にある。そこでキャリア発達の視点からこの時期の課題を整理し、生徒の主体的な意思決定を支援する教師のかかわりについて考察した。
④ 不登校児童への支援を考える ～“支える”・“つながる”ことを大切に～ 松江立川津小学校 教諭 谷 徹	不登校児童への支援において、最終目標は社会的自立であるという共通認識のもと、すべての支援者がかかわり合いながら支援していくことが大切である。“支える”・“つながる”という視点から、具体的な支援のあり方について探った。
⑤ 特別支援学校のセンター的機能の取組からA特別支援学校の教育相談の役割を考える 出雲養護学校 教諭 山本 博子	特別支援学校のセンター的機能における取組について研究を進めた。島根県内の特別支援学校12校にアンケート調査と聞き取り調査を行い、A特別支援学校のセンター的機能における教育相談部の役割について考察した。
⑥ 『遊びの指導』に関する一考察 松江養護学校 教諭 蘆田 晃子	子どもの遊びに焦点を当て、知的障がいのある児童の指導形態の一つである『遊びの指導』の捉えについて研究を進めた。幼稚園や特別支援学校等において、『遊びの指導』に取り組む際に大切にしたい視点を考察した。

(5) 講演 14:30~16:10

《詳細は、別紙をご覧ください》

演題 「学校はどう変わるのか～学習指導要領の方向性」

講師 大谷大学文学部教授 元京都市立堀川高等学校校長 中央教育審議会初等中等教育分科会委員

あらせ かつみ
荒瀬 克己 氏

(6) 閉会行事 16:10~16:20

4 展示等 9:30~16:30 (研究情報棟 講義室)
島根県教育センター 2016 ICT体験・展示会 ～授業に役立つICT機器やデジタルコンテンツを体験してみませんか～

11:40~14:30 (研究情報棟 第1パソコン室)
教科教育、特別支援教育等に関するDVD視聴コーナー

- その他
 - (1) 参加申し込み、参加費等は必要ありません。(資料は当日準備いたします)
 - (2) 昼食を注文することができます。(昼食受付8:40~9:50)
 - (3) 教育センター本館駐車場と入口正面の第2駐車場をあわせた駐車可能台数は、約1000台です。駐車できない場合もありますので、できるだけ公共交通機関を利用していただくか、乗り合わせてお出かけくださいますようお願いいたします。
 - (4) 本発表会の参加をもって、初任者研修の校外自主研修(「エ 研修会・研究会をとらえての研修」とすることが可能です。

問い合わせ先 〒690-0873 松江市内中原町255-1 島根県教育センター 研究・情報スタッフ 本間 達也 TEL(0852)22-5872 E-mail: homma-tatsuya@edu.pref.shimane.jp